

東京都 スポーツ推進委員だより

第134号

(一社)東京都スポーツ推進委員協議会

2025年 1月 13日

編集：情報委員会

ご挨拶



新年のご挨拶



明けましておめでとうございます。

スポーツ推進委員の皆さまにおかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、元旦に能登半島地震が発生し、豪雨災害や記録

的な猛暑が続くなど、自然の脅威に見舞われ、多くの人々の生活に大きな影響がありました。スポーツ界では、パリオリンピック・パラリンピックで日本選手が多くのメダルを獲得し、アメリカ大リーグの大谷選手の活躍が大

きな話題となりました。

今年は「巳年」。干支は「乙巳（きのと・み）」となるので、「乙」は成長途中の植物を表し、「巳」は再生と変化を意味することから、2025年は努力が実を結び、成長と成果が期待できる年とされるそうです。

東京では、新たな「東京都スポーツ推進総合計画」が3月に策定され、9月には世界陸上選手権大会、11月にはデフリンピックが開催されます。こうした機会を通し、地域スポーツが更に発展していくよう取り組んでまいりますので、本年もどうぞよろしくお願いいたします。

会長 新島 二三彦

研修会



課題別研修会

令和6年11月30日（土）14時から墨田区 曳舟文化センターにおいて、実践女子大学 名誉教授であり日本ハラスメント&リスクマネジメント総合研究所所長の日野一男様を講師にお招きし、「スポーツ推進委員活動におけるスポーツ事故防止とリスクマネジメントについて」という内容で講義研修が行われました。市区町村部からの参加者は69名でした。

まず初めにスポーツ推進委員は、プロではなく、プロフェッショナルを目指すようにと、以下、研修資料より『スポーツ推進委員は、社会的信望のもと、スポーツに関する深い関心と理解を持ち、その活動を行うための熱意と能力があり、住民に対して、スポーツの実技と指導・その他スポーツに関する指導・助言を行い、「地域スポーツの中核的なコーディネーターとして、行政・スポーツ団体の円滑な連携の調整などを含め、住民の心身の健全な発達と維持・増進と、時に子供たちの人間形成をも含

め、障害スポーツの振興に努めることを期待される高的な位置にいる」という話から始まり、法律に関してのお話では、スポーツ事故・負傷事件について刑事責任・民事責任に関する違法性の阻却・危険の同意（危険受任の法則）と判例を挙げての説明と、セクハラ・パワハラに関する訴訟の判断は「自分の行為・言動がセクハラか否かを知らないことが罪である。」との話もありました。

講義を聴いているうちに段々と責任が重い気持ちになってきましたが、指導者とプレイヤーがコミュニケーションをよくとることがリスクを回避するために必要であり、自分が教えているスポーツには、何に注意が必要かを考えて行動することや、いつもと違う状態かなどをよく観察することが重要であることが理解でき、気を引き締める機会になりました。また、講じていただいた内容について地域に戻り、参加できなかったスポーツ推進委員に情報共有をすることが大切だと感じました。



記事 芝田 珠美 情報委員会（品川区）

写真 加来 剛 情報委員会（豊島区）

全国大会



全国スポーツ推進委員研究協議会 宮崎県

令和6年11月14日（木）、15日（金）の両日「既成概念からの脱却」～宮崎で共に創る新たなスポーツの世界～の大会テーマのもと、宮崎県宮崎市の「ひなた武道館」をメイン会場として、第65回全国スポーツ推進委員研究協議会宮崎大会が開催されました。全国から3000人近くのスポーツ推進委員が参加しました。

1日目は開会式にさきだち宮崎県のシンボルキャラクター「みやざき犬」と宮崎市市制100周年記念キャラクター「みやねこ」の歓迎アトラクションが行われました。開会式のあと、表彰式が行われ、都スポ協関係者も多数受賞されました。特別講演は「スポーツのちからと地域社会」と題し、スポーツジャーナリスト・大阪芸術



大学教授の増田明美様が登場されました。ユーモアあふれる講演で会場が笑顔にうつまれました。その中でいくつかの事例が出さ

2日目は3つの分科会に分かれて、それぞれのテーマについて事例発表と討論が行われました。

第1分科会「つくる/はぐくむ」視点でのスポーツ推進 コーディネーター松尾哲也様（立教大学 教授）、発表者 和田保典様（公益財団法人宮崎県スポーツ協会 事業部長）、金川敏洋様（一般社団法人串間スポーツクラブ 代表理事）、瀬戸口美智子様（宮崎県スポーツ推進委員協議会 副会長）

第2分科会「あつまり、ともに、つながる」視点でのスポーツ推進 コーディネーター工藤康宏様（武庫川女子大学 教授）、発表者 小嶋崇嗣様（宮崎県新富町長）、山子剛様（国立大学法人宮崎大学工学部 准教授）、神河

美樹様（NPO 法人都城ぼんちスポーツクラブ 事業課長）
第3分科会「誰もがアクセスできる地」視点でのスポーツ推進 コーディネーター 児玉友様（日本福祉大学 准教授）、発表者 木下大輔様（株式会社ボラシェア 就労促進室室長）、仲井宗基様（八戸学院光星高等学校硬式野球部 監督）、秋本範子様（ヴィアマテラス宮崎 代表）、松元春香様（医療法人岡田整形外科 理学療法士）
今大会では大会テーマでもある既成概念をいかに脱却するにあたり、各地域間で問題となっている部分をどのような視点で取り組むことで乗り越え、地域の方々に提供出来るかを考えさせられる研究内容でした。

記事 江上 郁子 情報委員会（北区）

写真 加来 剛 情報委員会（豊島区）



全国大会



第65回全国スポーツ推進委員 東京都 表彰

〈受賞者のみなさま〉

受賞おめでとうございます。

「敬称略」

〈功労者表彰〉



橋本 純（新宿区）



山本 博志（清瀬市）



堀内 千春（西東京市）



石川 佐和子（墨田区）



堀口 和美（羽村市）

〈30年勤続表彰〉



羽住 敏久（足立区）



渡辺 一章（千代田区）



内田 常幸（練馬区）

〈文部科学大臣表彰〉



赤澤 賢一（西東京市）



正木 博（文京区）

〈優良団体表彰〉



豊島区スポーツ推進委員協議会

写真 加来 剛 情報委員会（豊島区）

研 修 会



交流ポッチャ大会

令和6年12月8日（日）14時から第4回都スポ協「交流ポッチャ大会」が文京区民センターにて開催されました。参加者は都スポ協 役員・正社員・各地区会長 総勢43名でした。

冒頭、新島会長より「普段、スポーツ推進委員はポッチャ大会といえば、運営側や審判に回ることが多いですが、今日はプレーを楽しみましょう」との挨拶の後、試合に入りました。1チーム2～3名でチームを組み、16チームが4つのコートに分かれて予選リーグを戦った後、順位決定トーナメントに移りました。会場の外は寒風が吹いた日でしたが、会場内ではチームで投球場所の作戦を練ったり、スーパーショットが飛び出したり、交流といえども皆勝利を目指して、楽しみながらも熱い戦いが繰り広げられました。

決勝戦は、新島会長の審判の下、皆が見守る中で、1

球毎に局面が変わり、最後の投球まで勝敗の行方が分からない好勝負となりました。大会結果は、1位は谷明男さん（目黒区）羽住敏久さん（足立区）三枝敏洋さん（小金井市）、三枝さんは前回に続いての優勝でした。2位は松田文子さん（豊島区）仁科渡さん（国立市）中根宏行さん（江戸川区）、3位は石塚敏朗さん（八王子市）大野均さん（練馬区）でした。

最後に、岡田副会長より「こうした交流会は大事なので来年度も開催する」との挨拶で閉会となりました。終了後は、会場を移しての情報交換会が開催され、参加者間での親睦を一層深めることができました。

当日各々が感じたポッチャの楽しさを、各地区でのポッチャ関連行事の中で、参加者の方に感じてもらえるようにサポートしていきたいと改めて気持ちを新たにしました。



記事 中根 宏之 情報委員会（江戸川区）

写真 長谷川 恵二 情報委員会（昭島市）

研 修 会



実務研修会

令和6年12月14日（土）13時30分より新宿区の新宿スポーツセンターにおいて、令和6年度の実務研修会が行われました。この研修会は、パラスポーツ振興の取り組みやデジタル技術を活用した新たな可能性を学ぶことを目的とし、全三部構成で実施されました。参加者は56名でした。

第一部では、東京都生活文化スポーツ局スポーツ総合推進部パラスポーツ課長の松阪智仁氏が「東京都におけるパラスポーツ振興について」というテーマで、東京都が進めるパラスポーツの振興策や事業について詳しく解説しました。また、東京パラリンピックの成功を契機とした関連セミナーや、2024年に開催予定の東京デフリンピックに関する情報も共有され、参加者はその内容に大きな関心を寄せました。

第二部では、東京都生活文化スポーツ局スポーツ総合推進部パラスポーツ課の課長代理である笹生一樹氏が「デジタル技術を活用したパラスポーツ（eスポーツ）事業について」と題して講義を行いました。

eパラスポーツは、障がいのある方々が特殊な入インターフェイス（力をほとんど必要としないスイッチや視線追跡機器など）を使用してゲームをプレイする新し

い分野です。その歴史は浅く、2年前に始まったばかりですが、障がい者の新たな運動機会を提供する可能性を秘めています。笹生氏は、これらの技術がもたらす可能性や課題についても詳しく説明しました。

第三部では、一般社団法人UD eスポーツ協会理事で作業療法士の園田大輔氏を講師（熊本県よりリモート参加）に迎え、「eパラスポーツ体験会」が行われました。最初に園田氏がさまざまなスイッチや入力装置について説明し、その後、参加者たちが実際にこれらの装置を使用してゲームを体験しました。

体験会の最後には、抽選で選ばれた参加者同士による対戦形式のゲームが行われ、大いに盛り上がりました。この体験を通じて、参加者たちはeパラスポーツの魅力や可能性を実感しました。

今回の実務研修会は、パラスポーツの現状と未来について学ぶだけでなく、デジタル技術を活用した新たなスポーツの可能性を体験する機会となりました。参加者からは「この内容を各地域に持ち帰り、eパラスポーツの普及を通じて障がい者の運動機会を広げたい」といった意見が多く寄せられました。非常に有意義な研修会となりました。



記事 長谷川 恵二 情報委員会（昭島市）

写真 加来 剛 情報委員会（豊島区）

研 修 会



広域地区別研修会報告

ブロック 担当地区	期日・会場 参加者数	研修テーマ・講師
1B 港区	7月20日(土) 港区スポーツセンター 92名	『一緒に体験をすることで障がいを身近に感じ、他人事ではなく自分ごとと感じてもらう時間の共有』 ～7つの障がい者サッカーとは～ ・講師：一般社団日本障がい者サッカー連盟 山本 康太 氏 ・実技：ウォーキングフットボール（ボールを変えることや、旗を振るなど、ピッチマネージャーがその場に応じて対応した。）
2B 北区	9月28日(土) 北とぴあ つつじホール 123名	『地域の課題に向き合うスポーツのありかた』 講演テーマ『スポーツでの暴力・体罰・ハラスメントをなくすには？』 ・講師：東洋大学 健康スポーツ科学部 学部長 健康スポーツ科学科 教授 齊藤 恭平 氏 ・各地区発表・テーマ『地域課題に向けたスポーツの実践』
3B 目黒区	9月7日(土) めぐろ パーシモンホール 八雲体育館 144名	『共生社会におけるスポーツの推進と普及を目指して』 サブテーマ 「誰もがスポーツを楽しむ続けるために」 ・講師：日本パラバレーボール協会 副会長 竹田 賢仁氏 パラバレーボール(座位)男子日本代表選手 高砂 進氏 ☆分科会① 実技 『パラバレーボール(座位)体験会』 ・講師：日本パラバレーボール協会 副会長 竹田 賢仁氏 パラバレーボール(座位)男子日本代表選手 高砂 進氏 ☆分科会② 座学 『スポーツと安全』 ～スポーツで起こりうる事故の予防と安全管理体制の構築～ ・講師：NPO法人スポーツセーフティージャパン 代表理事 佐保 豊氏
4B 豊島区	9月28日(土) としま産業振興プラザ 「IKE・Biz」 6階多目的ホール 77名	第1部 講演・トークセッション 『学ぶなら今でしょ！「東京2025デフレンピック」 大会を見据えて、現状と今後の取り組み』 ・講師：立教大学コミュニティ福祉学部スポーツウエルネス学科教授 松尾 哲矢 氏 デフアスリート(400mハードル)：高田 裕士 氏 第2部 グループワーク(実技) 手話エクササイズ(準備運動)を考える。
5B 足立区	9月28日(土) 足立区役所 庁舎ホール 125名	『パラスポーツの普及やデフリンピック開催が地域にもたらすもの』 サブテーマ 「デフリンピック開催に向けた理解とスポーツ推進委員の関わり方」 講演①テーマ：「デフアスリートとして感じること」 ・講師：デフスキー選手冬季デフリンピックメダリスト 田苗 優希 氏 講演②テーマ：「デフリンピックを通じた共生社会の実現に向けて」 ・講師：サインフットボールしながわ代表 植松 隼人 氏

6B 日野市	9月7日(土) 日野市市民の森 ふれあいホール コミュニティルーム 1・2 108名	『学校部活動の地域移行・地域連携について』 第1部 講演 講演①『東京都における学校部活動の地域連携・地域移行の取り組みについて』 ・講師：東京都教育庁指導部指導企画課（部活動振興担当） 指導主事 谷川 圭 氏 講演②『日野市における学校部活動の地域移行・地域連携の取り組みについて』 ・講師：スポーツデータバンク株式会社 社長室室長兼地域担当プロデューサー 長瀬 貴紘 氏 第2部 グループワーク
7B 福生市	8月24日(土) 福生市民会館小ホール 100名	『基礎的運動能力』 サブテーマ 『下肢から考える健康について』 ・講師：帝京大学 医療技術学部 蛭間 栄介 氏 レクリエーションテーマ『座りながら楽しくできる運動』
8B 立川市	11月10日(日) たましん RISURU ホール 第一会議室 59名	『地域スポーツ推進におけるアスリートとの協力体制について』 講義：テーマ『部活動委託など新たな課題に対するスポーツ推進委員の関わり方について考える』 ・講師：一般社団法人アスレティックス・ラボ 代表理事 花谷 昂 氏 グループ討議 ①アスリート団体の協力によって実現可能な新規事業のアイデア ②部活動の地域移行に際し、スポーツ推進委員が担うべき役割や課題 ③幼少期からのスポーツに対する意識づけを促進するためにできる活動案 ④各地域のスポーツ推進委員が展開する特色ある取り組みの共有
9B 小金井市	9月7日(土) 小金井宮地楽器ホール 144名	『地域住民のスポーツニーズに応えるスポーツ推進委員の役割』 サブテーマ 『昨年の研修会のその後とスポーツ推進委員の知名度を向上させるための取り組み（活動）について』 講演：テーマ「スポーツの力とスポーツ推進委員の役割」 ・講師：東京工学院専門学校 池田 智彦 校長 各市事例発表
10B 清瀬市	9月21日(土) 清瀬市民体育館および 下宿地域市民センター 内会議室 64名	『近現代におけるスポーツの現状』 サブテーマ 『地域住民のニーズに応え、楽しみながら体を動かす』 第一部 講演テーマ「新体操を通じての学び」 ・講師：新体操オリンピック 川本 ゆかり 氏 第二部 実技内容「ストレッチ&ダンス体験会」 ・指導：清瀬市スポーツ推進委員会委員 上野 可南子 氏
11B 八丈島・ 利尻村	11月22日(金) ニューピア竹芝 サウスタワー 4階 会議室 20名	育成世代の体幹トレーニング指導について サブテーマ 島しょ地区におけるスポーツ活動の現状と課題 ・講師 木場 克己 氏（プロトレーナー） 各地区活動報告

編集後記

新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

3月に MLB 開幕戦で大谷選手はじめ日本人大リーガー対決、世界陸上、デフリンピックと東京でスポーツの祭典が開催されます。各地区のスポーツ推進委員のみなさまの中にも競技委員や大会ボランティアとしてご活躍される方も多くいらっしゃると思います。本当に楽しい1年ですね。

情報委員会としては、地域の活動内容を共有できるような新たな企画も企んでおりますので、今後とも情報提供等ご協力のほどよろしくお願いいたします。

編集 柴田 恭伸 情報委員会（狛江市）

#####